

九州漢方来し方行く末

第2部 陰陽・虚実・寒熱の関係性 病態生理に基づいた漢方

九州漢方研究会60周年記念講演
2018.9.16

梶原町立国保梶原病院
吉富 誠

第2部 陰陽・虚実・寒熱の関係性

- 第一部では戦後の九州漢方復興史の話をしていただきました。
- 薬剤師が復興の中心的役割を演じ、薬局漢方が昭和30年代40年代に盛んになりました。
- 残念ながら当時の情報量は少なく、病態生理を重視した漢方ではなく、限られたエキス製剤処方への運用の各論を暗記する学習でした。
- 第2部は病態生理を理解するための講義です。

病態生理をふまえた漢方

- 漢方の基礎理論の内容は現代医学の病態生理とかけ離れたものではありません。
- 特にこれから述べる陰陽・虚実・寒熱の関係性は「黄帝内経」に基づいていますが、現代医学の病態生理の基本的考えと相違ありません。
- 病態生理を理解したら、各論暗記型の学習から抜け出して自己学習可能になります。

陰陽・虚実・寒熱の相互関係が解ると
漢方の診断と治療方針がわかり
自己学習できるようになる

- 陰陽とは何か？
 - 虚実とは何か？
 - 陰陽・虚実・寒熱の関係は？
- あなたはどの理解してますか？

吉富復陽堂

4

自己学習で混乱するいろんな陰陽

- ①温度の陰陽
陰証＝寒証 陽証＝熱証
- ②傷寒論の三陰三陽(六経弁証)の陰陽
陰証＝三陰(少陰・太陰・厥陰)
陽証＝三陽(太陽・少陽・陽明)
- ③経絡の陰陽
三陽経と三陰経
- ④八綱の陰陽
その他の六綱の総綱

吉富復陽堂

5

陰陽

陰陽を理解するためのキーワード

「何を分けた陰陽か？」

吉富復陽堂

6

森羅万象の陰陽

あらゆる事象を陰陽に分けることができるが、何をわけたのが重要である。

陰陽は相対的で、絶対の陰陽はない。

- 寒熱や明暗は相対概念である

	温度	明るさ	深さ
陰	寒	暗	裏
陽	熱	明	表

復陽堂

7

医学における陰陽は

陰=物質 陽=機能

の意味で用いられる場合が多い。漢方では重要なポイントであるが、一般のテキストでは強調されていない。

物質と機能も相対的である。

古典では「形と質」「体と用」などと表現されている。「物と事」と言ってもよい。具体的には物質=血・津液 機能=気 と表現される。

吉富復陽堂

8

陰陽ドリル

どっちが陰どっちが陽？

森羅万象を物質と機能の観点から陰陽に分けてみよう。

吉富復陽堂

9

問1 「光」を陰陽に分けると

光 = () + ()

() : 物質 = 陰

() : 機能 = 陽

吉富復陽堂

10

問1 「光」を陰陽に分けると

光 = 粒子 + 波動

粒子 : 物質 = 陰

波動 : 機能 = 陽

吉富復陽堂

11

問2 「川」を陰陽に分ける

川 = () + ()

() = 陰 = 物質

() = 陽 = 機能

吉富復陽堂

12

問3

「精神」を陰陽にわけると？

精 = ()

神 = ()

吉富復陽堂

13

精神も陰陽に分けられる

- 精：神を支える物質的基礎：陰
- 神：生命活動現象を主宰する生命の機能的側面：陽

中国漢方医語辞典より

夫精者 身之本也（素問 金匱真言論）

三浦梅園

1723～1789

江戸中期の医師、哲学者、経済学者、自然科学者

豊後の国東半島に生まれ、生涯この地で医を業としながら、自然哲学大系を追求した。東洋哲学をベースに、西洋の天文学にまで及ぶ広汎な思索は高く評価されている。

著書『玄語』『贅語ぜいご』『敢語かんご』

復陽堂

15

三浦梅園の陰陽論

- 陰陽陰陽とむかしより人々いへども陰陽というものたしかにとける文も見侍らず。
- 古人、純陰純陽などいひ侍れども、陰陽はいつ迄も相偶するものにして、純に陽なるもの、純に陰なるもの、天地にはあられぬもの也。
- 万物かく迄しげれども唯ふたつまで也。ふたつとは氣と物のふたつ也。氣はかたちなきものなり。物はかたちあるものなり。たとい此天地をのぞきて別に天地ありというとも、形あるもの一、かたちなきものひとつの外にはなし。

16

復陽堂

陰陽相互の関係

相互対立関係

相互依存関係

相互に対立しながら相互に依存している関係

吉富復陽堂

17

川の相互依存・相互対立関係

• 相互対立関係

上流は流れ早く(陽実)水少ない(陰虚)

下流は流れは遅く(陽虚)水多い(陰実)

• 相互依存関係

水がなければ坂でしかない

流れがなければ池でしかない。



吉富復陽堂

18

男と女の関係も

- 相互対立関係
 - 相互依存関係
- あなたの場合はどちらが主ですか？

吉富復陽堂

19

虚と実

実=有余

虚=不足

という意味の用言である

吉富復陽堂

20

虚実を理解するための キーワード

何が有余なのか

何が不足なのか

主語を明らかにすべし

吉富復陽堂

21

虚実の主語は何？

- 中医学では
虚実とは邪正闘争論(病因論)である
虚=正気不足 実=邪気有余
根拠は『素問』通評虚実論の一文
「邪気盛んなれば則ち実、正気奪すれば則ち虚」

主語を固定したため虚実の定義として
理論矛盾を生じている

虚実は基本概念ではなく八綱弁証で定義されている

虚実の主語は何？

- 日本漢方では
症状の虚証と実証
体力の虚証と実証
闘病反応の虚証と実証

いろんな主語があり前後の関係で主語を推察するしかない

虚証・実証？

- 主語が無いので、何が不足で何が有余なのかわからない。
- 重要古典である素問・靈樞・傷寒・金匱には虚実~~に証をつけた表現は一箇所も無い。~~
- 日本語は主語を省略しがちな言語であるが、論理的な会話に主語は必須である。

何を補い何を除くのか？

虚実に主語が無ければ
何を補い何を除くのか不明
主語を誤れば命にかかわることもある。

吉富復陽堂

25

救急の現場でこれを誤れば・・・

点滴を投与する	陰（物質）を補う
利尿剤を投与する	陰（物質）を瀉す
強心剤を投与する	陽（機能）を補う
βブロッカーを投与する	陽（機能）を瀉す

吉富復陽堂

26

老中医 任应秋先生の説

虚実の意味は大変広く多方面を包括しており、正気に虚実あり、邪気に虚実ある。故に病変・病証の中には必ず虚実があり『素問』通評虚実論の「邪気盛んなれば則ち実、正気奪すれば則ち虚」の2句だけで虚実のすべてを概括することはできない。（中医理論弁より）

内経でも

素問 調経論

「岐伯曰有者为実無者为虚」

岐伯曰わく 有るを実となし無きを虚となす

靈枢 刺節真邪論

「虚者不足、実者有餘」

虚は不足、実是有餘

張景岳の虚実論

景岳全書伝忠録 虚実篇

虚実者有餘不足也。有表裏之虚実、有気血之虚実、有臓腑之虚実、有陰陽之虚実。

（虚実是有餘不足なり。表裏の虚実あり気血の虚実あり、臓腑の虚実あり陰陽の虚実あり。）

陰陽と虚実と寒熱の関係

通常は陰陽の相互対立関係により、一方が有餘となれば片方は不足となる。

1) 機能亢進（陽実）のために相対的に物質不足（陰虚）となる場合と、物質不足（陰虚）のために相対的に機能亢進（陽実）となる場合、共に熱を生じる。一般に前者を実熱・後者を虚熱と謂う。

2) 機能低下（陽虚）のために相対的に物質有餘（陰実）となる場合と、物質有餘（陰実）のために相対的に機能低下（陽虚）になる場合、共に寒となる。

吉富復陽堂医院

30

陰陽の有余不足(虚実)と寒熱

陰 (物質)	陽 (機能)	
陰 (物質) 虚	陽 (機能) 実	陰 < 陽 → 熱
陰 (物質) 実	陽 (機能) 虚	陰 > 陽 → 寒

陰 = 陽

通常は相互対立関係により、一方が有余となれば片方は不足となる。

31 吉高復陽堂

景岳全書伝忠録 寒熱篇

寒熱者 陰陽之化也 陰不足則陽乘之 其變為熱
陽不足則陰乘之 其變為寒

- 寒熱とは陰陽の化である
- 陰不足ならば陽がこれに乗じて、その変化は熱となる
- 陽不足ならば陰がこれに乗じて、その変化は寒となる

吉高復陽堂 32

本と標(因果関係) 主に本を治す

本 → 標

- 陰虚のために陽実・主に陰(物質)を補う
(物質不足) (機能亢進)
- 陽実のために陰虚・主に陽(機能)を瀉す
(機能亢進) (物質不足)
- 陰実のために陽虚・主に陰(物質)を瀉す
(物質有余) (機能低下)
- 陽虚のために陰実・主に陽(機能)を補う
(機能低下) (物質有余)

33

甲状腺機能異常の病態を漢方で表現

- 甲状腺機能亢進症
機能亢進(陽実)のために物質不足(陰虚)となり熱がある
治療: 主に陽(機能)を瀉す 抗甲状腺薬
- 甲状腺機能低下症
機能低下(陽虚)のために物質有余(陰実)となり冷えている
治療: 主に陽(機能)を補う 甲状腺ホルモン剤

吉高復陽堂 34

一般に炎症は陽実のために陰虚となり熱が生じている状態

治療は主に免疫機能を低下させ(瀉陽)
補助的に物質である体液を補う(補陰)する

陽/陰	陽	陰
虚/実	陽実(機能亢進)	陰虚(物質不足)
状況	免疫機能過剰亢進	体液消耗
治療	ステロイド 抗炎症薬	輸液
漢方治療	清熱薬	補陰薬

35 復陽堂

一般に虚実は併存する

- 陰陽の相互対立関係から陰(物質・血水)と陽(機能・気)は一方が有余となれば片方は不足となる。比重の差あれども病態に虚実は併存する。処方も対応して補瀉している。
- 陰陽共に虚または実だけの病態は、陰陽の相互依存関係が全面にでた、重篤な場面で見られる。
- 何が不足しているか、何が有余なのかをみきわめて、補瀉することが肝心である。

吉高復陽堂 36

陰陽と虚実と寒熱の関係のまとめ

陰・陽	陰=物質 陽=機能
虚・実	虚=不足 実=有余
寒・熱	温度の指標 陰陽失調の結果である 陰虚陽実→熱 陽実陰虚→熱 陰実陽虚→寒 陽虚陰実→寒

さらに表裏を加えると

例えば

「裏・陰虚陽実・熱」と表現すれば

裏において物質が不足して相対的に機能が有余となり熱が生じていると言える。

何処で(表裏)・何が(陰陽)どうなって(虚実)・こうなった(寒熱)というストーリーが出来る。

治療は「そのそれをそうしてこうする」裏の物質を補い、機能は低下させて熱を去る

第2部のまとめ

- 陰陽は「何を」分けた陰陽なのか？
- 医学においては陰=物質 陽=機能が多い
- 虚=不足 実=有余
- 「何が」不足なのか、有余なのか？
- 寒熱は陰陽の有余不足による陰陽失調の結果である。
- 上記が理解できたら、基礎理論・診断学・処方学などを自己学習できるようになる。
- 第3部は以上のことをふまえて、診断と八綱弁証について。